



日本植物病理学会ニュース 第18号

(2002年4月)

【今後の学会活動予定】

1. 平成14年度部会開催予定

- (1) 北海道部会：平成14年10月24～25日
北海道農業研究センター（札幌市）
- (2) 東北部会：平成14年9月26日
プラザおでって（盛岡市）
- (3) 関東部会：平成14年9月27～28日
千葉大学（松戸市）
- (4) 関西部会：平成14年9月28～29日
三重大学（津市）
- (5) 九州部会：平成14年9月19～20日
高城会館（諫早市）

2. 講話会、研究会開催予定

(1) 第38回植物感染生理講話会

- 日時：平成14年8月7～9日
会場：ホテル大山（鳥取県大山町）
- (2) 第21回土壤伝染病講話会
日時：平成14年8月21日
会場：高山市民文化会館（高山市）
<http://www.affrc.go.jp:8001/ppsj/soilborne2002.htm>

【関連学会開催情報】

1. 日本菌学会第46回大会

- 日時：5月18日～19日
会場：信州大学農学部（長野県南箕輪村）

2. 2002年度土壤微生物学会大会

- 日時：平成14年6月5～7日
会場：ホテル塩原ガーデン（栃木県塩原町）
問い合わせ先：畜産草地研究所草地生態部
土壤生態研究室 斎藤雅典
TEL 0287-37-7227
<http://wwwsoc.nii.ac.jp/jssm/2002taikaiinanai.htm>

3. 第3回国際イネいもち病会議：

- 日時：平成14年9月11日～14日
会場：つくば国際会議場（つくば市）
<http://www.nias.affrc.go.jp/riceblast/>

【海外研究集会情報】(2002年7月～2003年3月)

1. **2nd Global Initiative on Late Blight Conference:**
Hamburg, Germany, July 11-13, 2002
http://www.cipotato.org/gilb/Conf2002/gilb02_conference.htm
2. **APS Annual Meeting:** Milwaukee, WI, USA, July 27-31, 2002
<http://www.apsnet.org/>
3. **The World of Microbes IUMS 2002 Congress:**
Paris, France, July 28, August 1, 2002
<http://www.iums-paris-2002.com/>
4. **10th IUPAC International Congress on the Chemistry of Crop Protection:** Basel, Switzerland, August 4-9, 2002
<http://www.cp.novartis.com/iupac2002/>
5. **7th International Mycological Congress:** Oslo, Norway, August 11-17, 2002
<http://www.uio.no/conferences/imc7/imc7/intro.html>
6. **26th International Horticultural Congress:**
Toronto, Canada, August 11-17, 2002
<http://www.ihc2002.org/ihc2002/cgi.html>
7. **Conference of European Foundation for Plant Pathology: Disease Resistance in Plant Pathology:** Prague, Czech Republic, September 9-14, 2002
<http://www.efpp.net/>
8. **6th International Conference on *Pseudomonas syringae* Pathovars and Related Pathogens:**
Maratea, Potenza, Italy, September 15-19, 2002
<http://www2.unibas.it/utenti/pseudomonassyringae/>

- 9. International Rice Congress 2002:** Beijing, China, September 16–20, 2002.
— <http://www.cgiar.org/irri/irc2002/index.htm>
- 10. 3rd Asia-Pacific International Mycological Conference on Biodiversity and Biotechnology (AMC2002):** Kunming, China, November 4–8, 2002.
— amc2002@china.com
- 11. 1st International Conference on Tropical and Subtropical Plant Diseases:** Chiang Mai, Thailand, November 5–8, 2002
— <http://www.disc.doa.go.th/diseases/>
- 12. Brighton Crop Protection Conference 2002:** Brighton, UK, November 16–21, 2002
— <http://www.bcpc.org/>
- 13. The 8 th International Congress of Plant Pathology (ICPP):** Christchurch, New Zealand, February 2–8, 2003
— <http://events.lincoln.ac.nz/icpp2003/>

海外研究集会情報は、学会ホームページ (http://www.affrc.go.jp:8001/ppsj/PPSJ_J.html) から引用させて頂きました。

【本学会活動状況】

1. 部会活動状況

(1) 部会開催状況

①北海道部会

平成13年10月22～23日 北方圏センター（札幌市）

②東北部会

平成13年10月4～5日 秋田市文化会館（秋田市）

③関東部会

平成13年10月18日 つくば国際会議場（つくば市）

④関西部会

平成13年10月20～21日 高知大学（高知市）

⑤九州部会

平成13年9月27～28日 佐賀大学（佐賀市）

(2) 部会開催報告

①北海道部会

平成13年度北海道部会は、10月22日（月）と23日（火）の2日間にわたって、札幌市北方圏センターで110余名が参加して開催された。22日は、午後1時から第183回談話会を行った。「環境負荷低減を目指した病害防除」のテーマのもと、福田 豊氏（種苗管理センター）、清水基滋氏

（道立十勝農試）、新村昭憲氏（道立道南農試）、近藤則夫氏（北海道大学）、竹中重仁氏（北海道農研）、島貫忠幸氏（北海道農研）、早野由里子氏（北海道農研）から各種病害における環境負荷低減型防除技術やその開発に向けた最近の興味深い研究成果が報告され、活発な討論が行われた。夕刻には懇親会が行われ、なごやかな歓談が2時間余りにわたって続いた。翌日23日には、午前9時30分から一般講演が行われた。21題（菌類病関係11題、細菌・放線菌病関係4題、ウイルス病関係6題）の研究成果が午前10題、午後11題に分けて発表され、熱心な質疑応答がなされた。また、午後の講演開始に先立って総会が行われ、行事や会計等部会会務が報告され承認された。
(高橋賢司)

②東北部会

平成13年度東北部会は10月4日（木）午後1時～5日（金）午後3時30分まで、秋田市文化会館において122名の参加を得て開催された。講演総数は35題で、ウイルス・ウイロイド病関係が22題、菌類病関係が13題で、活発な討議が行われた。また、5日午後1時からは東北部会主催、秋田県立大学、秋田県植物防疫協会、秋田県農業試験場・果樹試験場、秋田市の後援を得て「食料生産と農薬—農薬の役割と今後の方向」と題する公開講座が催された。講師に日本植物防疫協会研究所の田代定良氏、秋田県立大学の谷口吉光氏をお招きし、田代氏は農薬の専門家の立場から「農薬の現状と今後の動向」、谷口氏は一般消費者の立場から「食の安全性と農薬」という演題でお話を頂き、一般消費者、農家からの参加も得て、熱のこもった議論がなされた。その中では専門家と消費者の対話のなさが指摘され、今後の植物病理専門家の生き方の難しさを感じさせられた。第1日目の講演終了後、秋田市一番の繁華街「川反」の一角で懇親会が催され、地元を代表し秋田県立大学学長、農業試験場長の歓迎挨拶に続いて賑やかに進行し、山形県農業試験場田中 孝氏の中メの挨拶で終了した。また、2日目午前の総会では庶務、会計報告、新幹事等が承認され、次回14年度開催地として岩手県の盛岡市、開催地幹事として東北農研石黒 潔氏が承認された。
(内藤秀樹)

③関東部会

平成13年度の関東部会は、10月18日（木）午前8時30分からつくば市の国際会議場の中ホールで開催された。52題（菌類病関係17題、細菌・ファイトプラズマ病関係7題、ウイルス病関係11題、分子生物学5題、防除関係12題）の研究成果が、午前23題、午後29題に分かれて発表された。また、午後1時より、部会長挨拶及び次期部会長雨宮良幹

氏の紹介が行われた。今回は前年に引き続き新病害関係の発表がもっと多かったが、病原の種類を問わず分子生物学的手法を用いた研究成果が目立った。今回の参加者は約250名で、講演題数が多く一題当たりの討議時間が不十分であったものの活発な討議が行われ、予定より若干遅れて午後5時35分に終了した。講演終了後、同会議場レストランにおいて約70名の参加者を得て懇親会がもたれた。梶原敏宏名誉会員の音頭による乾杯後、なごやかな歓談が続き、最後に雨宮次期会長の挨拶で終了した。つくば市中心部での最初の部会開催であったが、これまでとは異なる雰囲気で盛会裏に終了することができた。会員諸氏のご協力に感謝する次第である。

(藤澤一郎)

④関西部会

平成13年度関西部会は10月20日（土）、21日（日）の2日間にわたり、高知市の高知大学朝倉キャンパスで300余名が参加して開催された。講演題数は95題（感染生理32、糸状菌病20、細菌病15、ウイルス病17、防除11）で3会場に分かれて発表され、活発な質疑応答が行われた。1日の講演発表終了後、同大学生協食堂において恒例の懇親会が150余名の参加を得て盛大に行われ、和やかな歓談が2時間続いて終了した。役員会は部会1日目の午前中に同会場において開催された。庶務、会計などの報告が承認された後、部会会則に基づく選挙によって平成14年度の部会長に道家紀志氏が選出された旨報告があり、承認された。また、平成14年度の部会開催地として三重大学（三重県）が承認され、同開催地委員長として久能均氏が選出され、さらに部会事務幹事として川北一人氏が推薦された。これらの案件は同日午後の総会で承認された。

(亀谷満朗)

⑤九州部会

平成13年度九州部会は例年通り九州農業研究会と共催で、9月27日（木）に佐賀市の佐賀大学で開催された。講演題数は26題、その内訳は細菌病3題、菌類病7題、防除薬剤関連等5題、ウイルス病11題で、参加者約100名による熱心な討議が行われた。また、一般講演終了後、長崎県森田昭氏による「ビワがんしゅ病の生理・生態に関する研究」と題する特別講演が行われた。昼の休憩時間を利用して幹事が開催され、役員の交代、会計報告、次年度開催計画、平成16年度九州地区担当予定の日本植物病理学会大会開催地等について審議され、平成16年度大会は福岡市にて開催されることが決定された。これらの審議結果は引き続き開催された総会で承認された。部会終了後、恒例の日本応用動物昆虫学会九州支部との合同懇親会が盛大に行

われた。翌28日には植物病理関係者による第26回シンポジウムが開催された。「暖地ばれいしょの青枯病—生態と防除—」（長崎県菅康弘氏）、「宿主特異的毒素を生産する *Alternaria* 属病原菌群の遺伝的類縁関係—分子系統学から見た病原型仮説—」（佐賀大学草場基章氏）、「熱水土壤消毒技術の開発と実用化への展望」（九州沖縄農研西和文氏）の3題の話題提供があり、活発な論議が行われ、盛会であった。

(高浪洋一)

【学会関連各委員からの報告】

1. 日本学術会議報告

第18期の日本学術会議は第133回総会（平成12年7月26日～28日）での発足以降、第134回（平成12年10月31日～11月2日）、第135回（平成13年4月25日～27日）、第136回（平成13年10月16日～18日）と総会を重ね、その間、今期活動計画である1) 人類的課題解決のための日本の計画の提案、2) 学術の状況並びに学術と社会との関係に依拠する新しい学術体系の提案、に関して議論を進めるとともに、「21世紀における人文・社会科学の役割とその重要性」、「データベースに関して提案されている独自の権利についての見解」の2つの声明を採択し、また、農林水産大臣に対して「地球環境・人間生活に関わる農業及び森林の多面的な機能の評価について」の答申を行った。現在は、日本学術会議の在り方についての討議が行われている。

一方、第6部会は総会と連動あるいは独立してこれまでに9回開催されているが、この間、今期活動計画である1) 食・農・環境・生活等の問題解決の方法と方策、2) 21世紀の農学のあり方と研究教育体制の構築、に関して議論を進めるとともに、これに関連した2、3の公開シンポジウムを開催するなどの活動を行ってきた。また、平成14年2月14日の第9回部会では、平成15年度科学研究費補助金審査委員候補者の推薦に係わる分科細目別対応研連一覧表の見直しについて検討がなされた。

なお、日本学術会議の活動内容等についての詳細は、日本学術協力財団から毎月発行されている雑誌「学術の動向」をご覧いただきたい。

(日比忠明)

2. 第3回日本学術会議植物防疫研究連絡委員会報告

(平成13年9月12日開催)

1) ヒアリングとして、河野義明委員により「衛生昆虫の薬剤耐性化機構について」と題する話題を提供していた。2) 委員長から、総会・連合部会が数回開催されたこと、第6部として「循環型社会の形成と農学」の公開講演会が平成13年7月5日、宇都宮大学で開催された旨の

報告があった。3) 平成13年度シンポジウム（第6回；平成13年11月16日開催予定）の準備状況を説明後、開催実施の詳細について討議した。なお、研連参加学会より協賛金として、計69万円を拠出いただき、本学会からは例年通り15万円拠出いただいた。4) 農薬学会の佐々木満委員より、第11回 IUPAC (International Congress of Pesticide Chemistry) 2006を日本で開催する方向で検討中であること、その際には協力を賜りたい旨の依頼があった。（寺岡 徹）

3. 第4回日本学術会議植物防疫研究連絡委員会報告

（平成13年11月16日（金）開催）

1) 豊田正武委員より「遺伝子組換え食品の検知と安全性評価」という演題で、ヒアリングの話題提供をしていただいた。2) 委員長から、学術会議総会・連合部会および同第6部会について、(1)農林水産大臣より諮問された「地球環境・人間生活にかかる農業及び森林の多面的な機能の評価について」について、11月1日付けで答申した、(2)平成16年度共同主催の国際会議の募集があり、その締切が本年12月末日であること、(3)平成14年度代表派遣会議および代表派遣候補者の募集があり、その締切が12月7日であること、(4)ノーベル賞100周年記念国際フォーラムが2002年3月16・17日に東京大学安田講堂で、3月20日に京都国際会館でノーベル財団との共催で行われる予定であること、が報告された。3) 植物防疫研究連絡委員会のホームページ作成について、寺岡委員が現況を事前調査すること、意見があれば、寺岡委員まで連絡することとした。4) 科学研究費補助金「系・部・分科・細目表」の平成15年度改正について「系・部・分科・細目表」が大きく変更となる予定、関連分野としては、分科農学の細目が変更され、「植物保護」が「植物病理学」に、「蚕糸・昆虫学」が「応用昆虫学」に、「作物学」が「作物学・雑草学」に、「園芸学」が「園芸学・造園学」に、それぞれなる予定。それぞれの細目の名称、キーワードの追加、変更を模索中であるが、12月には決定となる見込み。なお、本研連は「植物保護」を統括・総合しているという意味でその存在意義は大きいが、第6部会内の研連数を増やすことが難しいことから、改変については今後議論していきたい。5) 国家認定資格「技術士」に「植物保護」部門の新設を図る動きについて、委員長ならびに寺岡委員から、現況の説明があり、研連参加学会もご協力いただきたい旨の依頼があった。

なお、同日、委員会終了後、第6回植物保護・環境シンポジウム「循環型農林業における植物保護のありかた—その将来展望」が開催された。（寺岡 徹）

4. 日本学術会議微生物学研究連絡委員会報告

1) 前回委員会で学術会議学術体制常置委員会科学研究費分科会の案として提出された分化「微生物科学」を置く案は、9月半ばに示された科学技術・学術審議会学術分科会科学研究費審査部会の案では、取入れなれなかったとの報告があった。細目が変更された「応用微生物学」に当研連が窓口研連となれるように、また、微生物学がついたキーワードには、当研連から審査員候補者を推薦出来るよう働きかける事にした。2) 2002年7月27日～8月1日にパリで開催される国際微生物学連合（IUMS）総会に、できるだけ多くの参加依頼があった。尚、推薦を本学会ホームページで依頼したが、本学会からの推薦がなく、当研連としては、富田房男氏を IUMS Vice President として、光山正雄氏を Members at Large として、Arima Award の候補者として今中忠行氏を推薦する事とした。渡邊委員から、文部科学省の資料「知的基盤整備計画—2010年の世界最高水準の整備に向けて」が提示され、研究材料（生物遺伝資源等）が対象となっており、文部科学省が平成14年度の概算要求として National Bioresources Project (47億5千万円) を要求しているとの案内があり、各学会で速やかに対応出来るようにしておくよう依頼があった。3) 各種の BHI 培地の異常プリオン危険性について説明が合った。

（露無慎二）

【書評】

西山幸司・高橋幸吉・高梨和雄編：「作物の細菌病—病徵診断と病原の同定—」2001年追補 CD版、発行：(社)日本植物防疫協会、¥2,000

1991年に日本植物防疫協会から出版発行された「作物細菌病」の追補版として昨年8月に発売された。追補版というと従来の「本」を想像される人も多いと思われるが、実はCD-ROMである。細菌病の病徵その他の記述については、1991年版の内容を中心にしており、内容の構成はCD-ROM版であり、HTML (Hyper Text Markup Language) 文書の長所を生かし、画像情報も大量に取り入れ、どこからでもリンクできるようにしてある。

具体的な内容は、1. 日本産植物細菌病害の図鑑、2. 日本産植物細菌病と病原細菌の種類、3. 植物病原細菌の簡易同定、4. 最近話題の細菌および細菌病害、5. 細菌の分離方法と細菌性状の調査方法からなっている。1, 2については1991年版の記述を中心に構成されているが、2では日本産植物細菌病が食用作物、野菜、果樹、野草など植物群で区分配列された目次のほか、植物名の五十音順目次、細菌属名および細菌種名のabc順配列の目次などCD-ROMの特

徴を生かし、いろいろな方法で検索できるようになっている。この目次によって、ある作物名をクリックすると、それに発生する細菌病の病名、病原名が表示される。病名の後には「病徴」が表示され、これをクリックすると1の図鑑とリンクしていて、それぞれの病徴の説明、写真などが表示される。3, 4, 5については、最近の知見を基にして新たに追加されている。このCD版の編集の中心になった西山幸司氏は、周知のように1999年「植物病原細菌の分類および病原毒素に関する研究」によって日本植物病理学会賞を受賞されており、その成果がこのCD版に盛り込まれている。このようなCD版は多くの場合プログラムの作成を専門家に依頼するが、プログラムの作成費が高価で製作枚数が少ないとどうしても単価が高くなりがちである。そのこともあって西山氏は苦労しながら独自でプログラムをくみCDを作製したため、単価も極めて安くなっており、氏の努力に深甚なる敬意を表したい。ご本人も言っておられるが、CD版の作製に当たり完全なものではなく、不備な点があるのを承知の上で、ともかく形を作つて皆に利用してもらう事が先決という立場をとつておられる。確かに病徴写真がなく募集中といつても随所に見られる。また収録されている写真の中には重複して整理した方がよいものも見られるが、これはCD版の特徴を生かし、Version upの際に、読者各位の協力を得て新しいものを加え、また整理することを望みたい。

平成12年11月にはIT基本法が制定され、それに基づいて昨13年4月には21世紀における農林水産分野のIT戦略が明らかにされ、農業生産のIT化の一翼を担うためにいくつものデータベースを結びつけ、病害虫防除支援システムを構築しようとする構想があるようであるが、このCD版は今後そういう面でも活躍できるのではないかと大いに期待しているところである。
(梶原敏宏)

【学会事務局コーナー】

平成14年度の学会幹事および事務局

平成14年度の幹事は、塩見敏樹庶務幹事長、田中 穢、吉田重信、宇佐見俊行各庶務幹事、渡辺京子会計幹事の5氏となりました。

事務局では、飯田典子、松原美穂の2氏が日本農薬学会、日本応用動物昆虫学会および日本植物病理学会の3学会を担当しております。

平成12~13年度の幹事を担当された難波成任、堀田光生、植草秀敏の3氏には大変御苦労様でした。

【学会ニュース編集委員会コーナー】

情報提供および投稿のお願い:

本ニュースは身近な関連情報を気軽に交換することを主旨として発行しております。会員の各種出版物の御紹介、書評、会員の動静、学会運営に対する御意見、会員の関連学会における受賞、プロジェクトの紹介などの情報を寄せいただきたくお願いいたします。

投稿宛先: 〒170-8484 豊島区駒込1-43-11

日本植物防疫協会ビル内

日本植物病理学会事務局

学会ニュース編集委員会

FAX: 03-3943-6086

または下記学会ニュース編集委員へ:

松山宣明、竹内妙子、塩見敏樹、田中 穢、宇佐見俊行各委員宛

編集後記

皆様のご協力により学会ニュースNo.18をお届けすることができました。なお4月から新たに編集委員として竹内妙子、宇佐見俊行の両氏に加わって頂くことになりました。旧委員の難波成任、渡辺京子両氏には、ご協力有難うございました。
(松山宣明)

会員のご逝去

正会員の若江 治氏は平成13年11月6日に、野田千代一氏は平成13年12月19日に逝去されました。ここに謹んでご冥福をお祈り申し上げます。